

チ 加一八
 ヲ 五〇
 カ 三
 三 七〇
 三 五〇

十三

十二

十一

十

者ハ交および子を有リ + 人もし此教を有せずして爾曹に來らバ之を家に納
 ること勿れ彼に安かれと言ふかれ + 彼に安かれといふ者ハ共に其惡行に
 興する也 ○ + 我々多端われども紙と墨とを以て爾曹に書おくるを欲
 ず我儕ハ喜樂ト充滿せんと爲に爾曹に至り口を對て語らんことを望む + 爾
 姉妹すなはち選を蒙れる者ハ兒女ならん方に安を問ひアメン

新約全書使徒約翰第二書終

イ 提十九〇九 經十六〇廿
 口 經二〇十四
 ハ 經四
 三 經四〇十五 節四〇九
 二 經四〇十五 節四〇九
 一 經十九〇九 經十六〇廿

二

三

六

七

八

九

十

十一

新約全書使徒ヨハナ第三書
 長老愛するガヨス即ち我が誠に愛する所の者ハ書を贈るニ愛する者ハ爾
 が靈魂の隆んある如く爾すべての事につきて隆んに又庶幾ならんことを
 我々が三兄弟來りて爾が真理を有ること即ち爾が真理に行ひてを證
 えたれば我甚だ喜べり + 我が子等の真理を行むを聞に愈れる大なる喜樂
 ハ我になし愛する者ハ爾ハ寶旅なる兄弟にまで凡て行ふハ忠信をもて
 行へり + かれら教會の前に在て爾の愛を證せり爾もし神に合ふべく彼等
 の行路を助バ其行ふところ善なり + 彼等ハ主の名の爲に出て異邦人よ
 何を受ざれば也 + 是故に我儕かくの如き人を助くべし蓋われらも彼等
 と偕に真理に闘く者とならん爲なり + われ曩に書を教會に贈りしが彼等
 の中に於て長たらんことを欲むテラレバ我を納ざりき + 我もし往バ
 其行る所を心に記置ん彼ハ惡言をもて妄に我儕を論じ且これを以て足り
 とせず自ら兄弟を接ぎ其を接んとする者をも妨げて教會より驅けたらん +

ト 卷三〇二 卷前〇十五
 チ 卷三〇九 卷三〇六 卷九
 ヲリ 卷三〇七
 カ 卷十二

十二
 十三
 十四

愛する者よ惡に效ふ勿れ即ち善に效へ善を行ふ者ハ神より出惡を行ふ者
 ハ未だ神を見ざる也トテマテラヲハ衆人ト眞理トに證をせらる我儕も證
 をす我儕の證の眞實なるを爾知り我亦幾多の事を爾に書贈らん是爲也
 も筆と墨とを以て書おくるを欲せず速かに爾を見テ口を對へ語らん是
 を望む願くハ爾安かれ多の友ならざる安を問ひ請ならん我に代て諸友お
 のしに安を問

新約全書使徒約翰第三書 終

ト 卷十五〇 卷三三 卷一〇一

ハ 卷前〇五

二
 三

新約全書使徒エダの書
 イエスキリストの僕エダ即ちヤコブの兄弟書を召れたる者すなはち父な
 る神に愛せられ且イエスキリストの爲に守らる衆人に贈る願くハ爾
 曹に慈恵と平康と仁愛の増んことを○愛する者よ我心を熱して共に與
 る所の救の事を爾曹に書おくらんと思わたりしが今なんぢらに書を贈り
 て聖徒が一たび傳られし信仰の爲に力を盡して戰はん事を爾曹に勸
 ざるを得ず四ハ神を敬はず我儕の神の恩を易て色慾を放縱にするの緣
 となし唯一の主なる神と我儕の主イエスキリストを棄るもの數人曹に教
 會に入ればなり彼等が此審判を受るとお定られたる事ハ昔より預じめ
 録されたり五なんぢら素より知る事なれど我なほ爾曹に憶起させんとす
 る事ハ主の民をエジプトの地より救出し給へり信せざる者を滅ばし給
 ひし事と己が本位を守らずして其住る所を離れたる天使を限なく繋て
 大なる日は審判まで幽暗れ中に守り置たまひし事とセツトムゴモラ及び

ハ 卷前六十二
 ニ 卷二十
 ハ 卷一〇五
 ト 卷十五〇 卷三三 卷一〇一

四

五

六

七

ト 卷前七〇 卷十二
 チ 卷一〇七
 ヲリ 卷二〇四 卷一〇一
 ト 卷五〇 卷四 卷九 卷〇